

下関南部町郵便局庁舎

この建物には日本最古の現役の郵便局がある。モルタル煉瓦造りのこの建物は、1900年に赤間関郵便電報局として建てられた。建築家の三橋四郎（1867-1915）は、中庭を囲む左右対称の翼を持つルネサンス様式の設計を採用した。アーチ型のエントランスの上部には湾曲したペディメントがあり、その両脇には付柱が配されている。

日本における正式な国営郵便事業の歴史は1600年代初頭に始まるが、それ以前から、伝言や商品は「飛脚」と呼ばれる運び屋のネットワークを通じて配達されていた。小規模な公共機関に1871年、東京・大阪・京都間に元払い郵便と定期郵便が導入され、1872年からは全国に拡大された。下関南部町郵便局庁舎が建てられた当時、近代的な郵便事業はまだ歴史が浅く、その大部分はイギリスの郵便制度を手本としていた。電信は重要な通信手段であり、ビルの2階は電信局として使われ、周辺地域のための業務を行っていた。

郵便局前にある铸铁製の赤い柱型の郵便ポストは、1901年導入の赤く塗られた丸型のものをより現代的にしたものだ。そのデザインは、下関南部町郵便局の郵便設備管理者であった俵屋高七（1854-1912）によって考案され、全国的に採用された。